

科目番号・科目名	(1)職務の理解（6時間）			
指導目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。			
項目番号・項目名	時間数	うち通学学習	うち通信学習	講義内容・演習の実施方法等
①多様なサービスの理解	2	2		介護保険や障害者総合支援の多様なサービスについて、サービスの利用者像の概説とともに解説する。
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	4	4		付録 DVD『職務の理解』（65分）を視聴し、職場や支援の実際の様子を伝え、詳細を解説する。
（合計時間数）	6	6		
使用する機器・備品等	パソコン・プロジェクター			

科目番号・科目名	(2)介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）			
指導目標	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち通学学習	うち通信学習	講義内容・演習の実施方法等
①人権と尊厳を支える介護	6	6		高齢者・障害者の権利擁護・尊厳保持・虐待防止について説明する。 講師資料で ICF の考え方について詳解する。
②自立に向けた介護	3	3		実際の事例に基づき、エンパワメントについて考えてみる。
（合計時間数）	9	9		
使用する機器・備品等	特になし			

科目番号・科目名	(3)介護の基本（6時間）			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。 ・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。 			
項目番号・項目名	時間数	うち通学学習	うち通信学習	講義内容・演習の実施方法等
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	1	1		多職種連携・チームワークについて、実際の事例を元に具体的な動きと意義を説明する。
②介護職の職業倫理	1	1		日本介護福祉士会倫理綱領をもとに解説し、利用者視点でのグループワークを行う。
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	2		介護事故や利用者宅での事故、感染症などの事例から居宅介護のリスクマネジメントを考える。
④介護職の安全	2	2		介護職自身の心身の健康について、ストレス対策と腰痛予防の観点から解説する。
（合計時間数）	6	6		
使用する機器・備品等	特になし			

科目番号・科目名	(4)介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）			
指導目標	介護保険制度や障害福祉制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち通学学習	うち通信学習	講義内容・演習の実施方法等
①介護保険制度	3	3		介護保険制度について、市の市民向けパンフレットも活用しながら概説する。
②医療との連携と リハビリテーション	3	3		医行為と介護について、また、看護やリハビリについて、実際の介護場面を想定して概説する。
③障害者福祉制度および その他制度	3	3		障害福祉制度については介護保険との違いを軸に解説する。成年後見制度は市の資料を活用する。
（合計時間数）	9	9		
使用する機器・備品等	特になし			

科目番号・科目名	(5)介護におけるコミュニケーション技術（6時間）			
指導目標	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち通学学習	うち通信学習	講義内容・演習の実施方法等
①介護における コミュニケーション	4	4		心理学の考え方も取り入れ解説する。失語症・認知症については、疾病についても概説する。
②介護におけるチームの コミュニケーション	2	2		多職種連携・チームワークのためにどのようなコミュニケーションが必要か、模擬事例によるグループワークを交えつつ解説する。
（合計時間数）	6	6		
使用する機器・備品等	特になし			

科目番号・科目名	(6)老化の理解（6時間）			
指導目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している			
項目番号・項目名	時間数	うち通学学習	うち通信学習	講義内容・演習の実施方法等
①老化に伴うところとからだの変化と日常	4	4		「老化」とは具体的にどんなことか、教科書に従い医学と社会の両面から解説する。
②高齢者と健康	2	2		高齢者に多い病気とその症状、介護にあたっての留意点を解説する。
（合計時間数）	6	6		
使用する機器・備品等	特になし			

科目番号・科目名	(7)認知症の理解（6時間）			
指導目標	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち通学学習	うち通信学習	講義内容・演習の実施方法等
①認知症を取り巻く状況	1	1		認知症という症状について概説し、本人中心のケアの重要性について解説する。
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	2		「脳の疾患」としての認知症を、教科書をもとに解説する。
③認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	2	2		認知症の中核症状と BPSD について、教科書をもとに解説する。
④家族への支援	1	1		教科書や認知症家族会の資料をもとに、当事者と生活を共にする家族の困難について解説する。
（合計時間数）	6	6		
使用する機器・備品等	特になし			

科目番号・科目名	(8)障害の理解（3時間）			
指導目標	障害の概念とICF、障害者福祉の基本的考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち通学学習	うち通信学習	講義内容・演習の実施方法等
①障害の基礎的理解	0.5	0.5		教科書をもとに、「障害」とは具体的にどのようなことを指すか概説する。
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	2	2		各障害の特性や発生原因について、教科書に沿って概説する。
③家族の心理、かかわり支援の理解	0.5	0.5		障害者の家族の負担やレスパイトについて、実際のサービス提供例も含め概説する。
（合計時間数）	3	3		
使用する機器・備品等	特になし			

科目番号・科目名	(9)こころとからだのしくみと生活支援技術（75時間）			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 			
項目番号・項目名	時間数	うち通学学習	うち通信学習	講義内容・演習の実施方法等
【ア 基本知識の学習（10時間）】				
①介護の基本的な考え方	1	1		介護とその社会化について、教科書から解説する。
②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4	4		教科書に沿って、心理学の考え方も紹介しつつ解説する。
③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	5	5		<p>人体の構造や仕組みについて解説する。</p> <p>〈演習の実施方法〉</p> <p>ボディメカニクスについて、体を動かし負担の少ない介護動作を学習する。</p>
【イ 生活支援技術の講義・演習（55時間）】				
④生活と家事	6	6		普段何気なく行っている家事について、意義とポイントを再確認する。
⑤快適な居住環境整備と介護	10	10		<p>バリアフリーについて、受講者それぞれの自宅をもとにグループワークを行う。</p> <p>〈演習の実施方法〉</p> <p>福祉用具は実機を用意し、居住環境の中での福祉用具使用について学習する。</p>
⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<p>整容に関する基礎知識、整容の支援技術を学習する。</p> <p>〈演習の実施方法〉</p> <p>受講生同士のロールプレイによる演習を通じて、整容についての介護実技を習得する。</p>

⑦移動・移乗に関連した こころとからだのしくみ と自立に向けた介護	13	13		<p>移動・移乗に関する基礎知識、様々な用具に関する用具とその活用方法、利用者、介護者にとって負担の少ない支援方法、移動と社会参加について解説する。</p> <p>〈演習の実施方法〉 受講生同士の演習を通じて移動・移乗についての介護実技を習得する。 教室周辺の環境も活用して実際に即した演習を行う。</p>
⑧食事に関連したこころ とからだのしくみと 自立に向けた介護	3	3		<p>食事について、食事介助・口腔ケアについての基礎知識を学習する。</p> <p>〈演習の実施方法〉 受講生同士のロールプレイによる演習を通じて、食事場面での支援や口腔ケアについての介護技術を習得する。</p>
⑨入浴、清潔保持に 関連したこころとからだ のしくみと自立に向けた 介護	5	5		<p>清潔保持の基礎知識、様々な入浴用具と整容用具の活用方法について学習する。</p> <p>〈演習の実施方法〉 受講生同士の演習を通じて、入浴介助や手浴・足浴、清拭などの清潔保持についての介護技術を習得する。</p>
⑩排泄に関連した こころとからだのしくみ と自立に向けた介護	4	4		<p>排泄に関する基礎知識、環境整備とおむつなどの活用方法について学習する。</p> <p>〈演習の実施方法〉 受講生同士の演習を通じて、排泄介助やおむつなどの交換についての介護方法を習得する。</p>
⑪睡眠に関連した こころとからだのしくみ と自立に向けた介護	4	4		<p>睡眠について生理学的な側面から理解し、心地良い睡眠のための環境整備について学習する。</p> <p>〈演習の実施方法〉 実際の特殊寝台を活用し、快適なベッドメイキングの意義や技術を習得する。</p>

⑫死にゆく人に関連した こころとからだのしくみ と終末期介護	4	4		<p>終末期に関する基礎知識と過程について、こころとからだのしくみを学習する。</p> <p>また、終末期の介護について、事例を交えながら解説する。</p> <p>〈演習の実施方法〉</p> <p>自分ならば、家族ならば、どんな終末を望むか、グループワークを行う。</p>
【ウ 生活支援技術演習（10時間）】				
⑬介護過程の基礎的理解	4	4		<p>介護過程の目的、意義、展開、介護過程とチームアプローチについて復習を行う。</p> <p>〈演習の実施方法〉</p> <p>受講生同士の、ロールプレイ・ディスカッションによる演習を行う。</p>
⑭総合生活支援技術演習	6	6		<p>事例をもとに演習を行う。</p> <p>〈演習の実施方法〉</p> <p>受講生同士の、ロールプレイ・ディスカッションによる演習を行う。</p>
（合計時間数）	55	55		
使用する機器・備品等	（別添）実技演習備品一覧表に記載した福祉用具			

科目番号・科目名	(10)振り返り（4時間）			
指導目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。			
項目番号・項目名	時間数	うち通学学習	うち通信学習	講義内容・演習の実施方法等
①振り返り	3	3		研修を通して学んだこと、今後継続して学ぶべきこと、 根拠に基づく介護について、テキスト内容をもとに振り返りを行う。 〈演習の実施方法〉 受講生同士のディスカッションによる演習を行う。
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1	1		講師資料も活用し、OJT、OFF-JT、キャリアアップについて説明する。
（合計時間数）	4	4		
使用する機器・備品等	特になし			